

# AI を用いた ICU 診療の質改善フォーラム

2020 年 12 月 13 日 (日) 13:00~15:00

## 議 事

### 1. 本フォーラムの概要について (昭和大学病院麻酔科/大嶽浩司)

### 2. 基調講演「厚生労働省が考える遠隔 ICU の現状と未来像」

(厚生労働省医政局地域医療計画課/新井悠介)

遠隔 ICU は日本では先進的分野であり、この領域の第一線で活動する医師による研究の進捗状況を知り、アカデミアと行政の方向をすり合わせることで、政策に活かしたい。

AI の導入、活用により、ICU 病床および遠隔支援センターで働く医師の負担を軽減したい。

今後は、遠隔 ICU の患者へのメリット、日本に適した遠隔 ICU 体制について、今後の情報共有を期待する。

### 3. 講演 1「AI を用いた重症度評価」(広島大学病院救急・集中治療部/大下慎一郎)

今後の課題として、重症化予測の解析精度を上げること、AI に組み込むべきデータの種類について検討が必要である。

### 4. 講演 2「重症系部門システムの時系列データを用いた AI 解析について」

(横浜市立大学附属病院集中治療部/高木俊介)

- ① 医療分野への AI 活用の目的は何か。
- ② AI 解析時の留意点は何か。
- ③ 開発中のアルゴリズムはどのようなものか。

### 5. 講演 3「AI により 3 時間先の集中治療患者の重症度を予測できるか？」

(昭和大学病院麻酔科/大嶽浩司)

- ① AI は学習に長時間を要するが、パラメータに関して高い精度で予測できる可能性が示唆された。
- ② パラメータの予測は、急変の予測に直結するわけではない。

### 6. 講演 4「集中治療コラボレーションネットワークが構築する未来の集中治療」

(京都府立医科大学附属病院集中治療部/橋本 悟)

日本における集中治療領域のデータベースについて紹介し、諸外国の状況を比較する。

集中治療における ICT 利活用を活性化することを目的とした NPO 法人を設立し、重症度予測モデルの開発、ICU データの標準化、データベースの活用、有事の IT 活用を目指す。

### 7. 挨拶 (京都府立医科大学附属病院集中治療部/橋本 悟)

挨拶 (日本集中治療医学会/西田 修)